

## 【金沢国税局長賞】

「十四歳の挑戦をきっかけにして」

富山市立堀川中学校三年 飛田 明泉

私は、社会に学ぶ十四歳の挑戦で児童館に行きました。児童館は小さい頃からよく利用していたのと、私がもともと小さい子が好きなこともあって、体験が始まる日を心待ちにしていました。

実際に体験や子供と遊ぶ活動が始まると改めて無料で遊べることに気づきました。思い返すと、児童館には、家にはないおもちゃや自由に遊べる広いスペース、絵本コーナー、そして小さい子が安心して遊べる環境がしっかり整っていました。それだけではなく、お母さんたちが育児について相談できる場にもなっていて「ママ友」どうしのつながりの場にもなっていたのです。しかもそれが全て無料でいつでも誰でも自由に遊べる、というのはよく考えたらすごいことです。そのとき、児童館の方が「児童館は税金でできている」と教えてくださいました。自由に遊べる児童館とあまり馴染みがない「税」は関係があると思っていたので私は驚きました。子供たちが安心して遊べる場所、見方を変えれば子育てで不安なお母さんたちの相談の場所。そんな児童館が税金のおかげで成り立っていることを知って、もっと税について知りたいと思うようになりました。そこで税金について調べてみると、身近にある図書館や小学校、公園なども税金で作られていることがわかりました。私が普段何気なく使っていた教科書や通っている学校もすべて税金で出されていることを知って「ありがたいな」と感じました。また、調べていくうちに小学校の先生がよく言っていた、「教科書を大事に使いなさい」という言葉を思い出しました。今、やっと意味を知ることができてこれからも大切に丁寧に使おうと強く思いました。

今までは児童館で遊べるのは当たり前だと思っていました。しかし大人が一生懸命働いて、納めてくれた税金で成り立っているものだと思って感謝の気持ちが生まれました。調べる前、正直私は、税金はあまりいいイメージではありませんでした。何に使われているのか知らず「なんのためのお金なんだろう」と思っていたからです。しかし調べてみると私たちの生活は様々な税金で支えられていることがわかりました。もし税金がなかったら、安心して通える学校も、自由に使える図書館も、危険な時に助けてくれる消防署や警察署もなかったかもしれません。私は、十四歳の挑戦をきっかけに、これまで「普通」だと思っていた生活が税金によって支えられていたと知り、税金の大切さを実感しました。税は複雑で難しいことも多く、中学生で興味がある人は少ないかもしれません。でも税について少しでも知識を持つことが、まだ働けない私達にとって大切なことだと、私は思います。